

近世京都の学問と東アジア

司会 私、本日司会を務めさせていただきます立命館大学文学部の桂島と申します。よろしくお願いいたします。本日は散策をしたいような気候の中、またいくつかの講演会や学会がちょうど重なっているような時期に、お忙しい中をご参集いただきましてありがとうございます。

立命館大学のCOEの中に「京都アート・エンタテインメント創生研究」というのがありまして、3年目でございますけれども、その中の私たちは1グループで「近世学問都市京都研究」というのをやらせていただいています。言うまでもなく江戸時代の京都はたくさんの学者を輩出してまいりました。それぞれ京都が輩出した江戸時代の学者に関しましては、個別の研究というのはそれこそ蓄積が相当あるというのは皆さまもご承知の通りかと思えます。例えば山崎闇斎学派とか伊藤仁斎、あるいは石門心学とか、そういった一つ一つに関する研究をもうちょっと総合的に、京都というものを視点にしながら捉え直すということをテーマにして、この間ささやかながら研究活動をやってきた次第です。

本日はこれまでの研究の中間的なまとめといたしまして、国際学術研究会を開催させていただくことにいたしました。基調講演はご承知の方も多いかと思えますけれども、岡山大学の高橋文博先生。現在は文学部長の激職をこなしていらっしゃる中、この会のためにお越しいただきました。高橋先生は江戸時代の思想史あるいは倫理思想史の研究では、申すまでもなく日本を代表する先生ですが、京都に関係する思想家の研究をこれまでたくさんおやりになってこられた方でございます。そういう中から少し近世の京都にかかわるお話をさせていただこうということでお願いしました。大変お忙しい中をわざわざお越しいただきまして、心より感謝を申し上げます。

それと中国と韓国の方から、それぞれ日本思想史の研究では第一線でご活躍していらっしゃる、中国からは龔穎先生、韓国からは成海俊先生にお越しいただき、これまた大変お忙しい中、台風も去った大変さわやかなところで日本にお越しいただきました。龔先生と成先生のご紹介は後ほどもう少し詳しくさせていただこうと思えますけれども、この研究会のためにわざわざお越しいただきありがとうございます。

では、まず高橋先生から基調講演を行っていただき、それから龔先生と成先生からご発表、そしてCOEの私どもで研究をやってきました石黒氏の報告。そのあとコメンテーターには神戸大学の宇野田先生をお願いしていますので、宇野田先生からコメントを頂戴して、若干残りの時間を質疑・討論にさせていただくということで運ばせていただきたいと思います。では高橋先生から基調の講演をいただきたいと思います。